

檜葉町モニタリング結果及び 除染仮置場監視員について

平成26年11月25日

檜葉町

1. モニタリング結果について

- ①家屋内表面汚染密度測定について
- ②ダストサンプリング調査について
- ③木戸川のストロンチウム(Sr-90)測定結果について
- ④飲料水供給施設水質放射性モニタリング測定等業務について
- ⑤環境ガラスバッチによる住宅の放射線量の計測結果について
- ⑥簡易分析測定器による食品の放射能レベルの測定結果について
- ⑦檜葉町における外部被ばくについて～年末年始、GW、お盆における特例宿泊～
- ⑧ホールボディーカウンター受診の状況について
- ⑨通学路における放射性モニタリングについて

2. 除染仮置場監視員について

- ①除染仮置場監視実施状況について

①家屋内表面汚染密度測定について

調査方法

2014年8月19日、20日の2日間において町内20か所の家屋内で外部からの影響を受けやすいと考えられる箇所を対象にスミア法(ろ紙で拭き取り)で試料を採取。その後、ゲルマニウム半導体検出器を用いて分析。

調査結果

測定箇所	対象核種	データ個数	不検出(ND)箇所数	検出された箇所数	最大(Bq/cm ²)
換気扇	Cs134	34	25	9	1.11
窓枠		37	21	16	0.38
その他		8	5	3	0.37
換気扇	Cs137	34	15	19	3.06
窓枠		37	11	26	1.13
その他		8	4	4	1.06

(※その他・・・薪ストーブ床面、バルコニー排水溝、畳、障子枠、洗面台、エアコン、屋根裏部屋)

参考:除染作業等に従事する事業者には適用される「事故由来廃棄物等処分業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン」では、作業者に「有効な保護衣類、手袋又は履物を備え、その作業に従事する労働者に使用」させる程度の放射性物質汚染として、4Bq/cm²の表面汚染(放射性セシウムなどのアルファ線を放出しない放射性同位元素)を定義している。

○調査結果に基づき家屋全体を比較すると、外気の影響を受けやすい「換気扇」や「窓枠」において、比較的多く放射性物質が付着している。

今後の方針

檜葉町で実施している住環境回復支援事業(ハウスクリーニング・害虫駆除等)や化学雑巾等での家屋内の拭取りを促し、低減に努めていく。

②ダストサンプリング調査について

調査方法

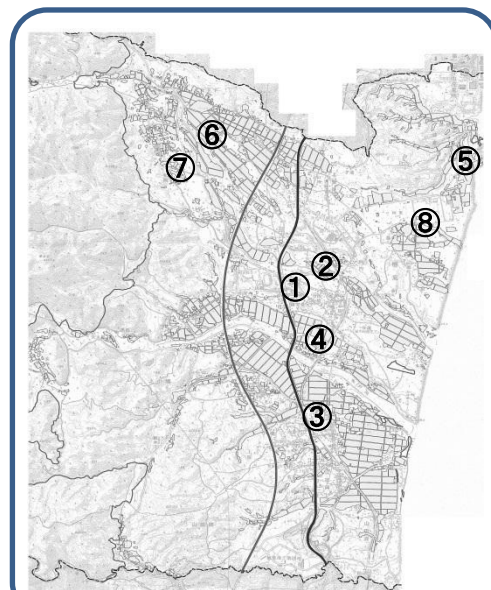
2014年8月から町内の公共施設屋外5箇所において、空気中の放射性物質の飛散状況を確認するため、ダストサンプラーを設置し、24時間吸引し、試料を採取。その後、ゲルマニウム半導体検出器を用いて分析。

測定箇所4箇所については、子どもが長時間滞在すると見込まれる教育施設で測定し、残り1箇所については町内の様々な公共施設での測定を実施、予定している。

調査結果

(Bq/cm³)

月	核種	①檜葉 中学校	②檜葉 北小学校	③檜葉 南小学校	④こども園	⑤波倉 集会所	⑥上繁岡 集会所	⑦松館 集会所	⑧下繁岡 集会所
8月4日 から 8月9日	Cs-134	ND	ND	ND	ND	ND			
	検出下限値	1.54×10^{-8}	1.51×10^{-8}	1.36×10^{-8}	1.51×10^{-8}	1.54×10^{-8}			
	Cs-137	ND	ND	ND	ND	ND			
	検出下限値	1.77×10^{-8}	1.84×10^{-8}	1.79×10^{-8}	1.75×10^{-8}	1.47×10^{-8}			
8月25日 から 8月30日	Cs-134	ND	ND	ND	ND		ND		
	検出下限値	2.58×10^{-8}	2.43×10^{-8}	2.48×10^{-8}	2.64×10^{-8}		2.42×10^{-8}		
	Cs-137	ND	ND	ND	ND		ND		
	検出下限値	2.88×10^{-8}	2.86×10^{-8}	2.93×10^{-8}	2.80×10^{-8}		2.74×10^{-8}		
9月16日 から 9月23日	Cs-134	ND	ND	ND	ND			ND	
	検出下限値	2.40×10^{-8}	2.35×10^{-8}	2.45×10^{-8}	2.45×10^{-8}			2.45×10^{-8}	
	Cs-137	ND	ND	ND	ND			ND	
	検出下限値	3.10×10^{-8}	3.08×10^{-8}	3.05×10^{-8}	2.93×10^{-8}			3.08×10^{-8}	
10月8日 から 10月18日	Cs-134	ND	ND	ND	ND				ND
	検出下限値	2.47×10^{-8}	2.62×10^{-8}	2.68×10^{-8}	2.31×10^{-8}				2.45×10^{-8}
	Cs-137	ND	ND	ND	ND				ND
	検出下限値	3.20×10^{-8}	3.08×10^{-8}	3.19×10^{-8}	2.97×10^{-8}				3.17×10^{-8}



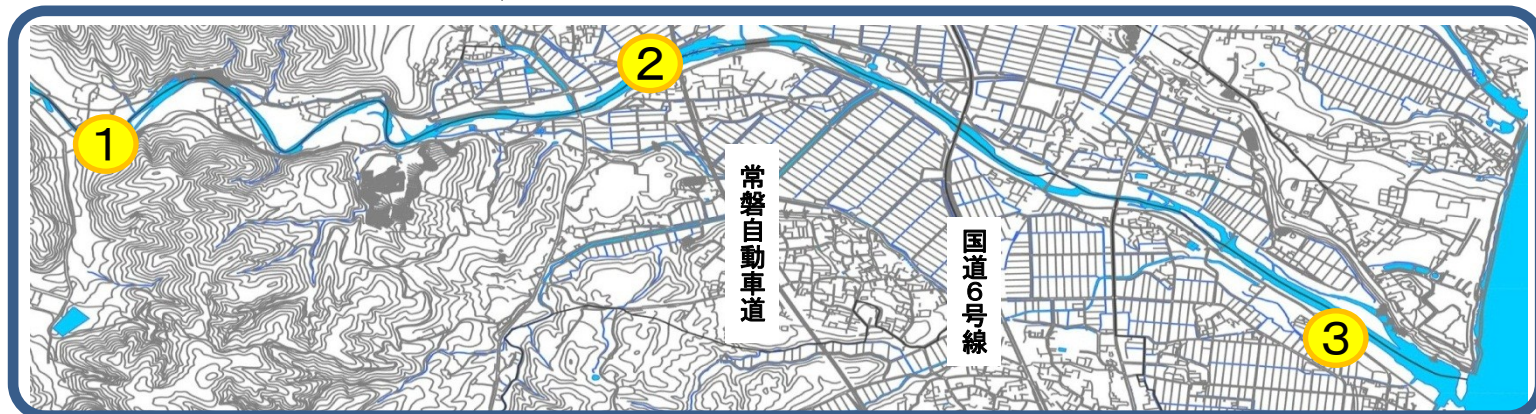
今後の方針

前年度も町内の公共施設5箇所においてダストサンプリング調査を実施しているが、全て検出限界値未満であった。今年度ダストサンプリング調査は全11回測定を予定している。今後も様々な条件を考慮しながら調査を継続していく。

③木戸川のストロンチウム(Sr-90)測定結果について

調査方法

2014年4月15日に木戸川河川水3ヶ所(上流、中流、下流)を取水。その後放射性ストロンチウム分析法の中からイオン交換法を選定し、低バックグラウンド用ベータ線測定装置を用いて測定した。



調査結果

試料名		試料採取日	放射化学分析		単位
			測定日	Sr-90	
河川水	① 檜葉町大字上小埜字夫太郎 地内	H26.04.15	H26.04.16 ~ H26.06.13	1.0±0.10 1.1±0.11	mBq/L
	② 檜葉町大字上小埜字中川原 地内				
	③ 檜葉町大字前原字作助 地内		H26.04.16 ~ H26.06.14	1.1±0.11	

参考

河川水等の放射能測定調査 (Sr-90)

都道府県名	試料採取地点	試料名	試料採取日	放射能濃度 (mBq/L)
岡山県	池河川	河川水	1964/6/11	32.56
福岡県	福岡市早良区	源水	1985/6/7	2.96
福島県	福島市	淡水	1985/8/27	2.22
		湖沼水	2000/9/12	0.32
秋田県	秋田市	湖沼水	2001/8/17	3.40
		河川水	2010/8/19	2.70
三重県	鈴鹿川	河川水	2010/10/15	3.40
広島県	庄原市	河川水	2010/10/18	1.50
茨城県	霞ヶ浦	湖沼水	2010/5/19	1.20

※公益財団法人日本分析センター 環境放射線データベースより引用

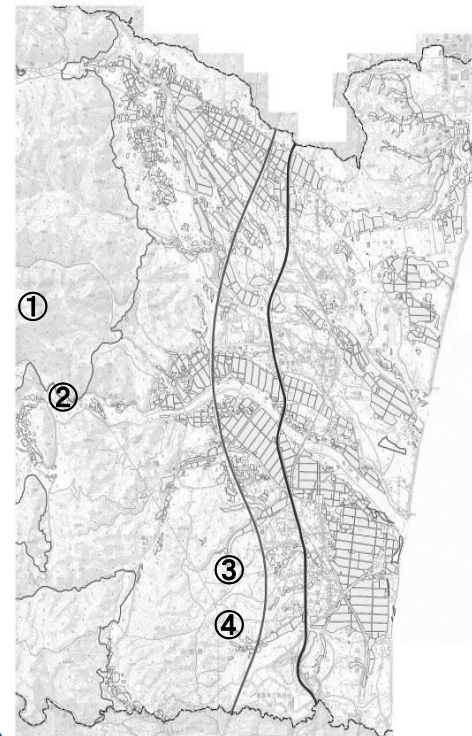
檜葉町の河川水における測定結果は、1.0mBq/Lから1.1mBq/Lであった。これは事故前の全国の陸水(河川水、湖沼水、源水、淡水)の測定結果と比べても少ない値であった。

④飲料水供給施設水質放射性モニタリング測定等業務について

調査方法

河川水のモニタリングに関しては、双葉地方水道企業団が町内1箇所の浄水場にて週3回実施している。沢水に関しては環境省が年4回実施しているが、河川水の測定頻度に比べ回数が少ないため、11月より檜葉町が町内4箇所の飲料水供給施設において、週3回ゲルマニウム半導体検出器を用いて分析する。

実施場所	実施回数	実施期間	検出下限値 (Bq/kg)		測定結果 (11月実施結果)
①乙次郎	週3回	平成26年11月 ～ 平成27年3月	Cs-134	0.735	ND
			Cs-137	0.793	ND
②女平			Cs-134	1.149	ND
			Cs-137	0.906	ND
③榎木下			Cs-134	0.894	ND
			Cs-137	0.878	ND
④大坂			Cs-134	0.628	ND
			Cs-137	0.600	ND



今後の方針

檜葉町として、水に対する安全、安心の面から飲料水供給施設の放射性モニタリング調査を次年度以降も実施する予定。

⑤環境ガラスバッチによる住宅の放射線量の計測結果について

調査方法

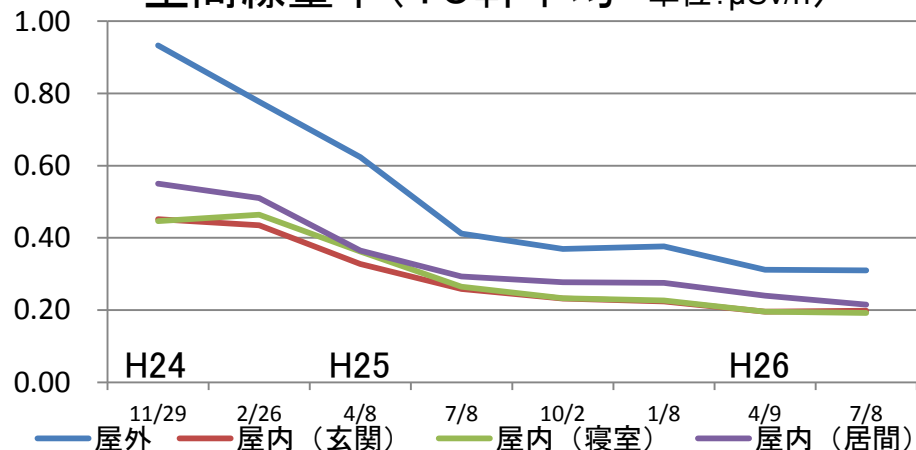
環境ガラスバッチによる個人宅の定点観測を実施。

平成24年11月から10軒を計測開始。その後平成25年4月から6軒の計測を追加。

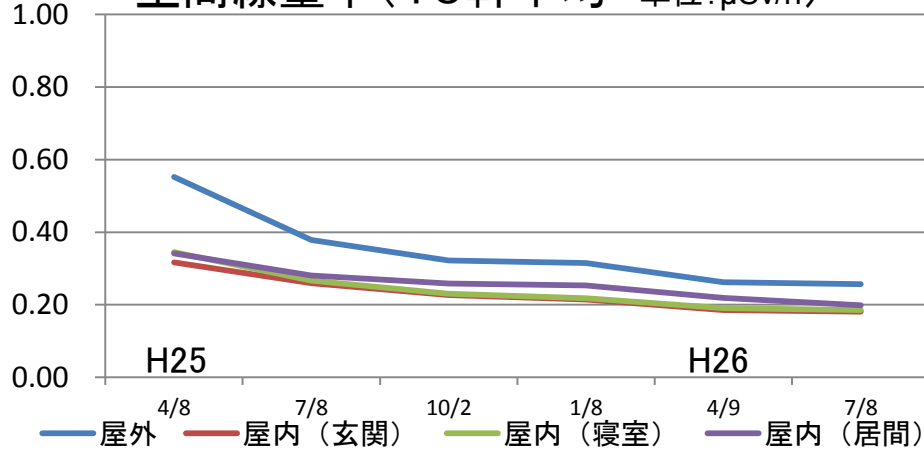
調査結果

日を追って線量は減少。室内の平均値は、 $0.3 \mu\text{Sv/h}$ を下回る数値となっている。

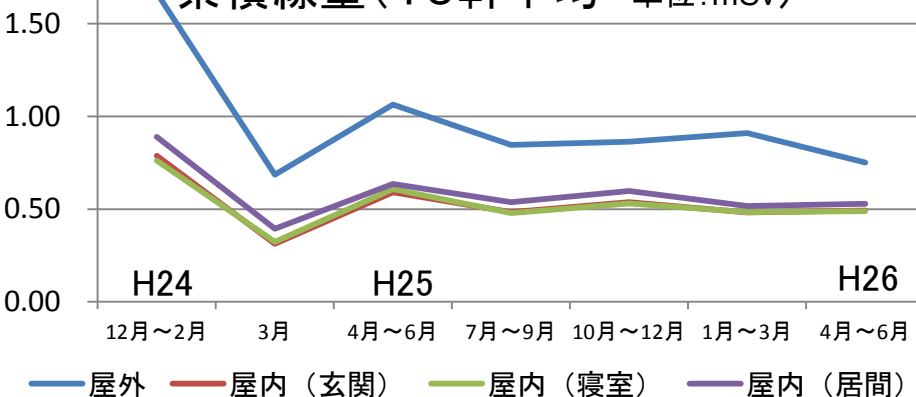
空間線量率(10軒平均 単位: $\mu\text{Sv/h}$)



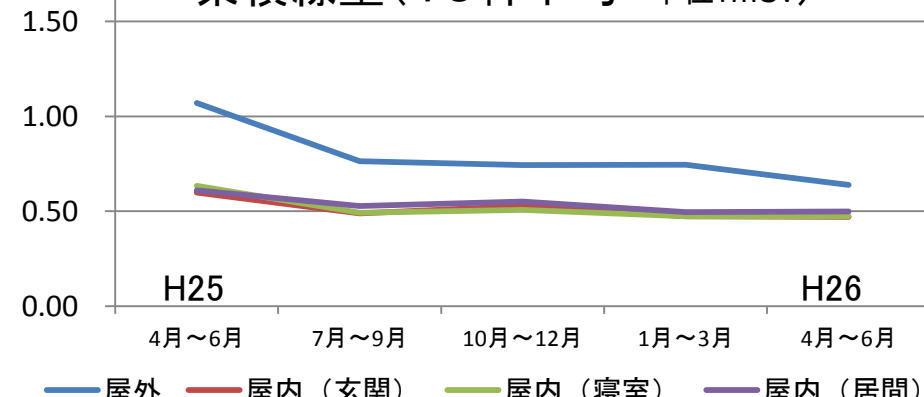
空間線量率(16軒平均 単位: $\mu\text{Sv/h}$)



累積線量(10軒平均 単位: mSv)



累積線量(16軒平均 単位: mSv)



⑥簡易分析測定器による食品の測定結果について

調査内容

檜葉町公民館に設置した放射能簡易分析装置により、住民持ち込み検体の測定を実施（測定期間：平成24年8月20日～平成26年10月15日）

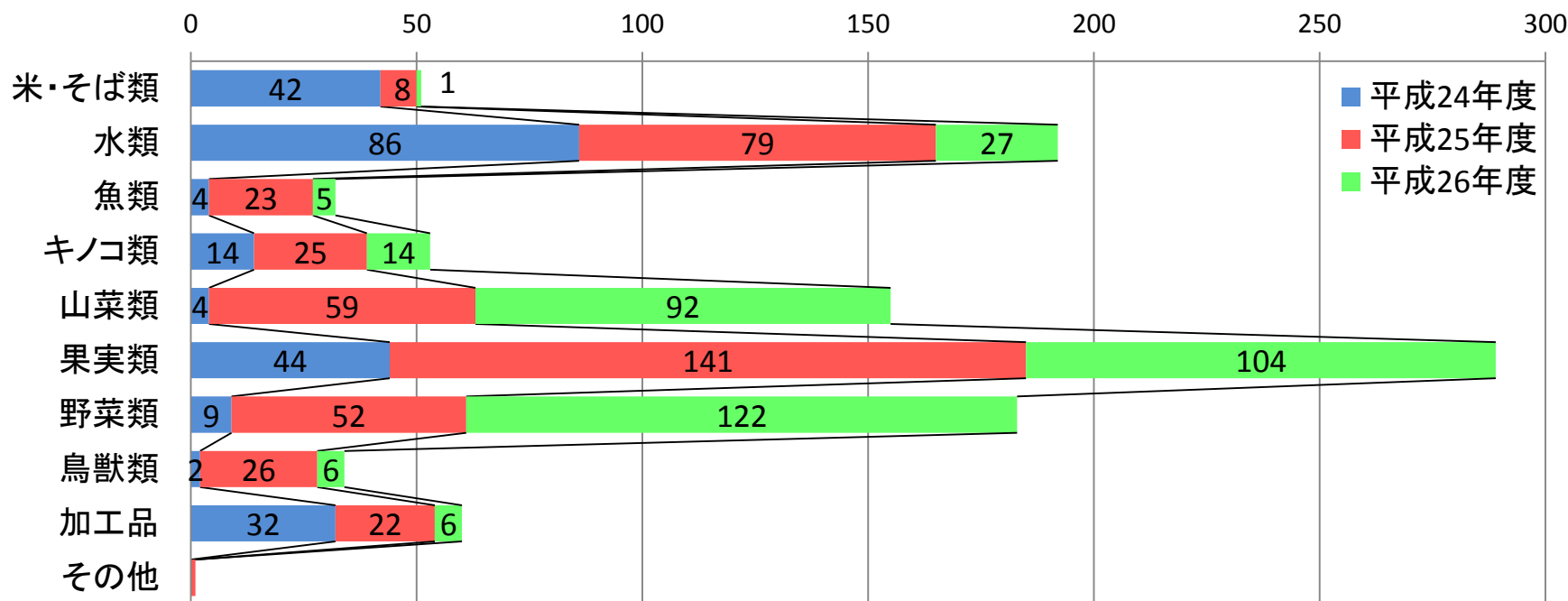
※平成26年度中に非破壊式放射能測定器を導入予定。

検体については「米・そば類」、「水類」、「魚類」、「キノコ類」、「山菜類」、「果実類」「野菜類」、「鳥獣類」、「加工品」、「その他」に分類し、測定結果を取りまとめた。期間内における持込検体の総測定数は1,050件となっている。

※平成24年度：237件、平成25年度：436件、平成26年度：377件

持込件数は果実類が最も多く、次いで、水類、野菜類の順となっている。

※果実類：289件、水類：192件、野菜類：183件



調査結果

平成26年度 各食品別における測定結果について取りまとめた。
(平成26年4月1日～平成26年10月15日のデータ)

食品分類	検体 個数	検出結果						検出数値 (最大) Bq/kg	検出数値 (平均) Bq/kg	備考
		ND		100Bq/kg未満 水類は10Bq/kg未満		100Bq/kg以上 水類は10Bq/kg以上				100Bq/kg以上 (水は10Bq/kg以上) の食品名
		個数	割合	個数	割合	個数	割合			
米・そば類	1	1	100%	0	0%	0	0%	ND	ND	なし
魚類	5	0	0%	2	40%	3	60%	2,110	422	ヤマメ、イワナ
キノコ類	14	0	0%	0	0%	14	100%	39,299	6,235	サクラシメジ、イノハナ、ホーキモダシ、椎茸 カキシメジ、舞茸、エノキ
山菜類	92	10	11%	40	43%	42	46%	6,266	391	コシアブラ、タラの芽、筍、ゼンマイ、ワラビ シドケ、ハチク、コゴミ
果実類	104	24	23%	75	72%	5	5%	132	40	柚子、栗、梅
野菜類	126	87	69%	34	27%	4	3%	1,077	72	ウド、ハーブ、ゴボウの葉、山椒
鳥獣類	6	0	0%	0	0%	6	100%	5,361	1,538	イノシシ
加工品	6	1	17%	3	50%	2	33%	178	95	ハチミツ、ワラビ漬
水類	27	25	93%	1	4%	1	4%	12	7	井戸水 (検出の後、再測定の結果NDであった。)
合計	377	145	38%	155	41%	77	20%			

各食品種別において、1つの検体から検出する放射線量が高いものは、キノコ類、山菜類に多いことがわかる。また、鳥獣類(猪)についても検出する放射線量が高い傾向にある。

(参考) 水稻の全量・全袋検査結果について

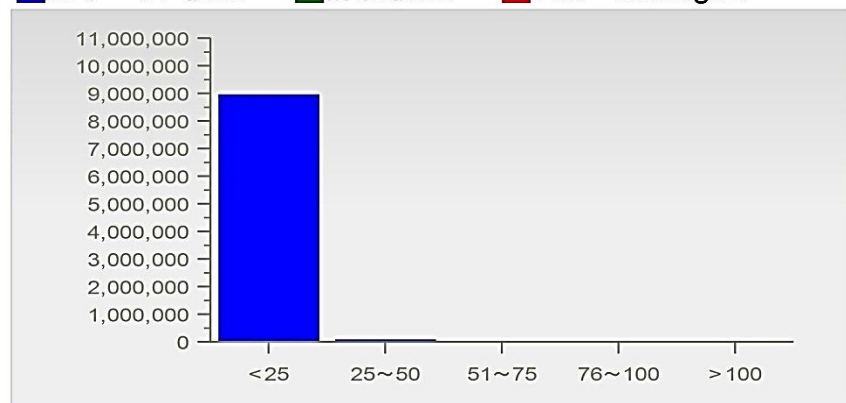
福島県において、県内で生産した玄米は、全量・全袋検査を実施し、食品衛生法に定める一般食品の基準値(100Bq/kg)以下であることを確認し出荷をしている。

スクリーニング検査により、基準値を超える可能性があるかと判断された米袋は、すべて「ゲルマニウム半導体検出器」で詳細な検査を行い、詳細検査結果を確定し、集計結果として公表している。

集計結果 平成26年産

福島県全域(市町村別) 検査点数8,885,968 点

■スクリーニング検査 ■詳細検査 ■100ベクレル/kg超



<スクリーニング検査>

	測定下限値 未満(<25)	25~50 ベクレル/kg	51~75 ベクレル/kg	76~100 ベクレル/kg	計
検査点数	8,884,328	1,620	7	0	8,885,955
割合	99.98 %	0.02 %	0.0001 %	0 %	100 %

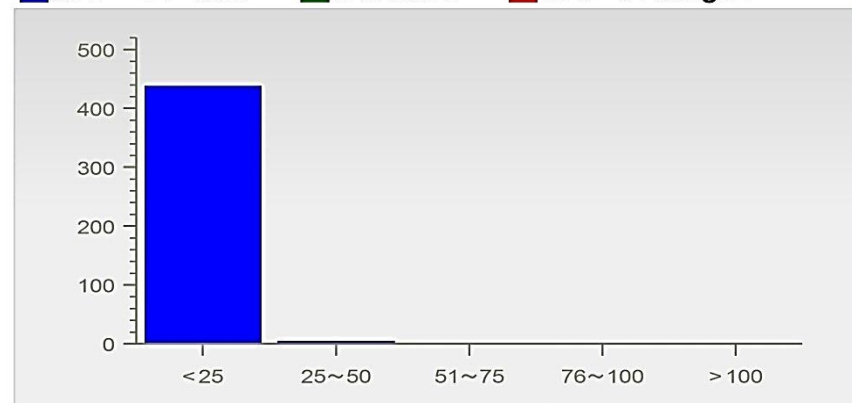
<詳細検査>

	25未満 ベクレル/kg	25~50 ベクレル/kg	51~75 ベクレル/kg	76~100 ベクレル/kg	100ベクレル /kg超	計
検査点数	13	0	0	0	0	13
割合	0.0002 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0.0001 %

集計結果 平成26年産

檜葉町 検査点数435 点

■スクリーニング検査 ■詳細検査 ■100ベクレル/kg超



<スクリーニング検査>

	測定下限値 未満(<25)	25~50 ベクレル/kg	51~75 ベクレル/kg	76~100 ベクレル/kg	計
検査点数	434	1	0	0	435
割合	99.77 %	0.23 %	0 %	0 %	100 %

<詳細検査>

	25未満 ベクレル/kg	25~50 ベクレル/kg	51~75 ベクレル/kg	76~100 ベクレル/kg	100ベクレル /kg超	計
検査点数	0	0	0	0	0	0
割合	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %

※福島県HPより出典

平成26年度の集計結果を見ると、基準値を超えるものについては、検出されなかった。
今後も米の全量・全袋検査を継続し、食の安心・安全を確保していくことが重要であると考えます。

(参考)福島県による「檜葉町における野菜作付実証試験」について

檜葉町の野菜(非結球性葉菜類、結球性葉菜類、アブラナ科花蕾類、カブ)は、原発事故から現在に至るまで出荷制限がかかっている状況にある。出荷制限を解除するためには、実際に町内各地に作付し安全性を確認する必要があることから、出荷制限品目から、4品目を指標作物として選定し、実証栽培が実施されたものである。

※指標作物:ホウレンソウ(非結球性葉菜類)、キャベツ(結球性葉菜類)、ブロッコリー(アブラナ科花蕾類)、小カブ(カブ)

※収穫は平成25年8月～11月に実施。

実証圃の選定にあたっては、下記に該当する地点のうち、農地除染が完了し、十分に土壌中の放射性セシウム濃度が低下していることが見込まれる4地点が選定されている。

- ・過去に当該品目から基準値を超える放射性セシウムが検出された地点
- ・環境モニタリングでより高い空間線量率が観測された地点
- ・土壌中でより高い放射性セシウム濃度が検出された地点
- ・山林等の地形の影響等、品目によって高い放射性セシウム濃度が検出される場合は当該要因について当てはまる地域

※実証圃の位置

圃場1:檜葉町大字上繁岡字取上下 地内

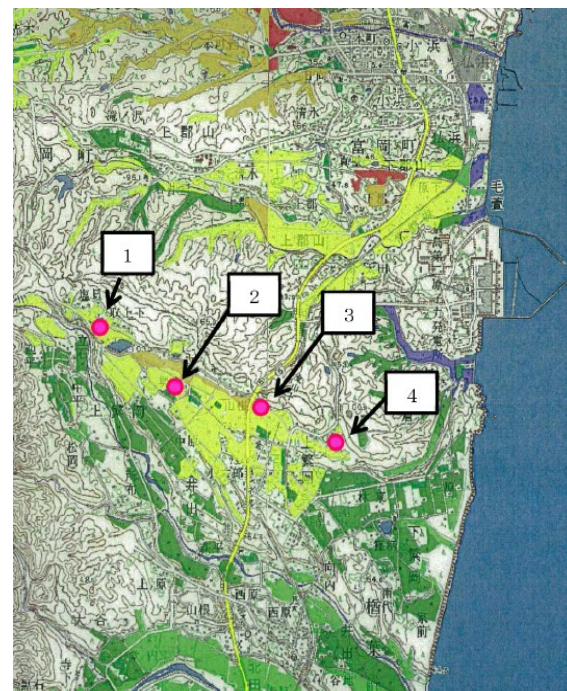
圃場2:檜葉町大字上繁岡字下奥海 地内

圃場3:檜葉町大字上繁岡字山神 地内

圃場4:檜葉町大字上繁岡字才連 地内

放射性物質検査結果については、11月5日採取圃場3のブロッコリーにおいて、 ^{137}Cs が 4.21Bq/kg が検出されたものの、すべての検体において基準値を大きく下回った。

【実証圃 位置図】



検出結果

ブロッコリー検出結果

圃場No	試料採取日	測定日	134Cs (Bq/kg)	137Cs (Bq/kg)
1	10月29日	10月30日	検出せず(<4.7)	検出せず(<4.1)
	11月11日	11月13日	検出せず(<4.5)	検出せず(<4.3)
	11月18日	11月20日	検出せず(<6.7)	検出せず(<4.6)
2	10月22日	10月23日	検出せず(<4.9)	検出せず(<5.1)
	10月29日	10月30日	検出せず(<4.3)	検出せず(<4.3)
	11月5日	11月6日	検出せず(<5.7)	検出せず(<5.6)
3	10月22日	10月23日	検出せず(<5.5)	検出せず(<5.3)
	10月29日	10月30日	検出せず(<4.4)	検出せず(<4.1)
	11月5日	11月6日	検出せず(<4.4)	4.21(<2.8)
	11月18日	11月20日	検出せず(<7.3)	検出せず(<4.4)
4	10月29日	10月30日	検出せず(<4.0)	検出せず(<4.0)
	11月11日	11月13日	検出せず(<5.4)	検出せず(<4.4)
	11月18日	11月20日	検出せず(<3.4)	検出せず(<3.6)

キャベツ検出結果

圃場No	試料採取日	測定日	134Cs (Bq/kg)	137Cs (Bq/kg)
1	10月22日	10月23日	検出せず(<3.9)	検出せず(<4.7)
2	10月22日	10月23日	検出せず(<4.5)	検出せず(<4.6)
	10月29日	10月30日	検出せず(<6.0)	検出せず(<5.1)
	11月11日	11月13日	検出せず(<4.9)	検出せず(<3.4)
3	10月29日	10月30日	検出せず(<5.9)	検出せず(<4.2)
	11月11日	11月13日	検出せず(<7.0)	検出せず(<6.5)
4	10月29日	10月30日	検出せず(<5.3)	検出せず(<4.7)
	11月5日	11月6日	検出せず(<6.0)	検出せず(<5.5)
	11月18日	11月20日	検出せず(<5.6)	検出せず(<3.8)

カブ検査結果

圃場No	試料採取日	測定日	134Cs (Bq/kg)	137Cs (Bq/kg)
1	10月15日	10月17日	検出せず(<4.5)	検出せず(<5.1)
	11月5日	11月6日	検出せず(<3.8)	検出せず(<4.2)
2	10月15日	10月17日	検出せず(<3.9)	検出せず(<3.3)
	10月29日	10月30日	検出せず(<3.3)	検出せず(<2.7)
	11月18日	11月20日	検出せず(<4.6)	検出せず(<4.4)
3	10月15日	10月17日	検出せず(<5.2)	検出せず(<4.6)
	11月5日	11月6日	検出せず(<5.7)	検出せず(<4.2)
4	10月15日	10月17日	検出せず(<4.5)	検出せず(<4.0)
	11月5日	11月6日	検出せず(<4.8)	検出せず(<3.5)

ホウレンソウ検査結果

圃場No	試料採取日	測定日	134Cs (Bq/kg)	137Cs (Bq/kg)
1	10月22日	10月23日	検出せず(<5.5)	検出せず(<5.1)
2	10月15日	10月17日	検出せず(<5.5)	検出せず(<4.4)
3※	10月7日	10月9日	ND(<13.6)	ND(<11.8)
4	10月15日	10月17日	検出せず(<6.3)	検出せず(<5.2)

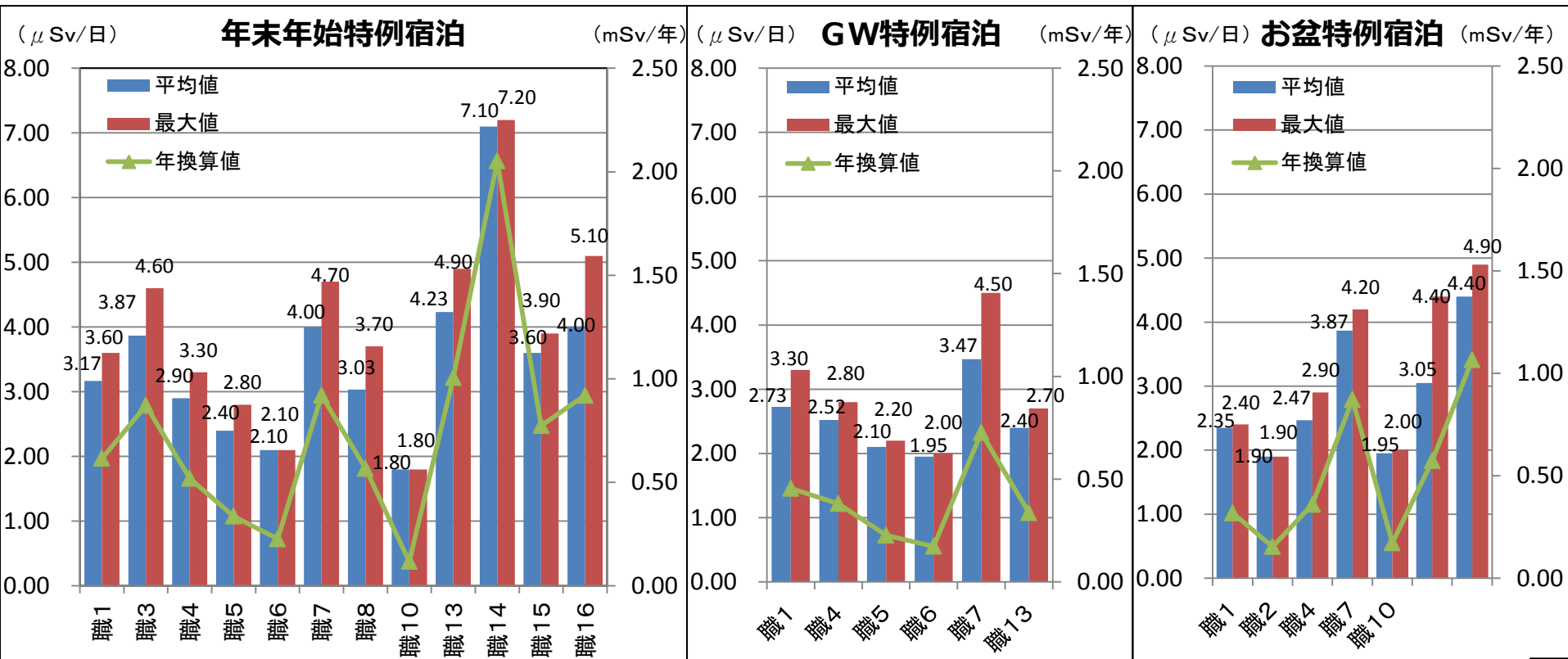
※生育途中にべと病が発生し収穫に至らなかった。

Ge半導体検出器による調査ができなかったため、簡易分析機による間引き時の分析結果を掲載

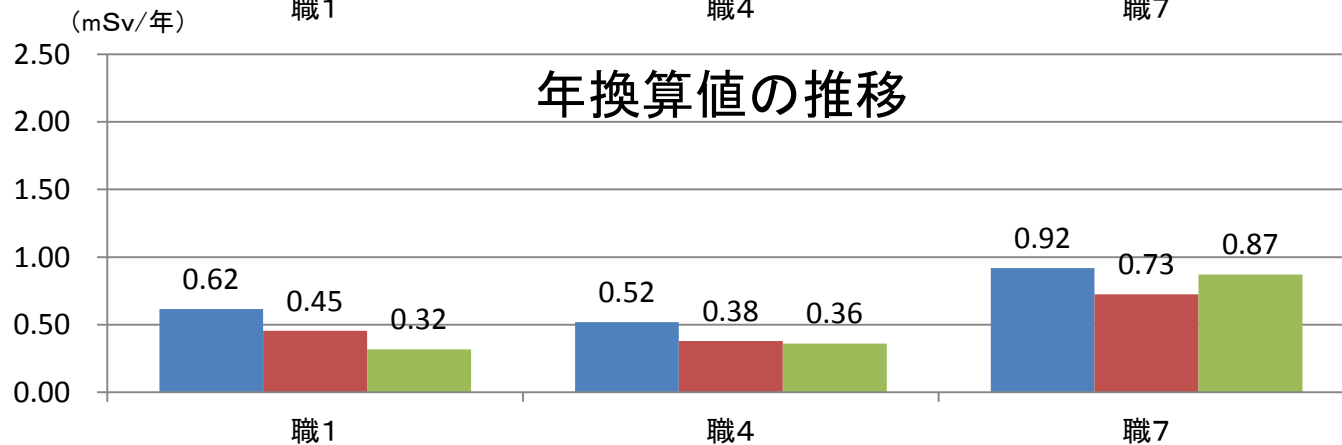
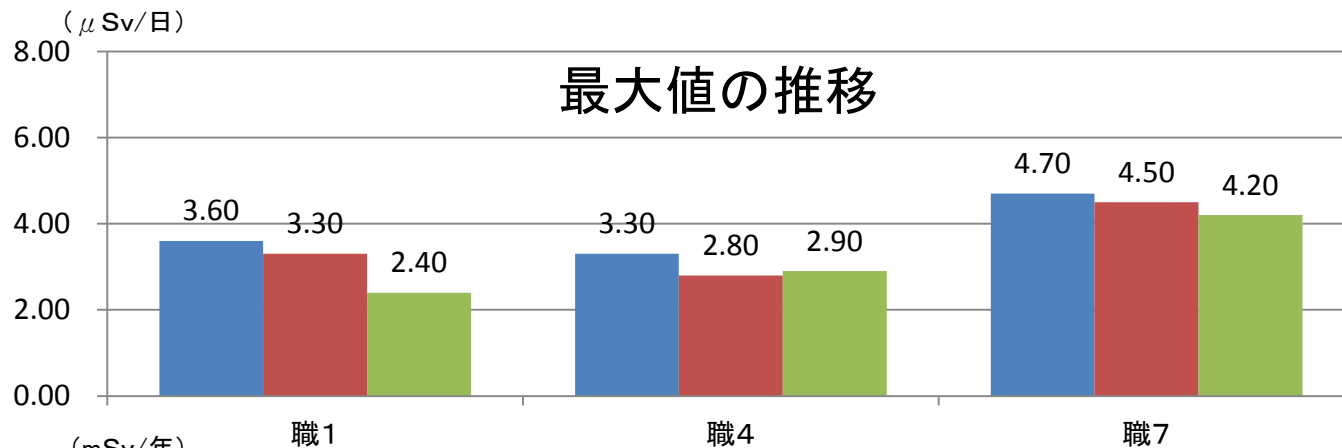
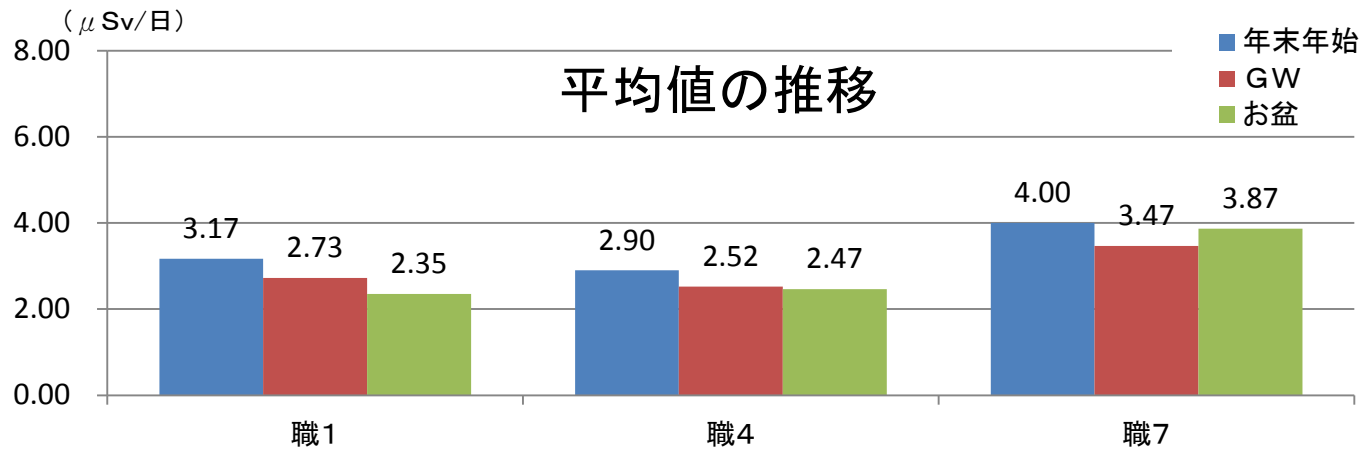
⑦ 檜葉町における外部被ばくについて～年末年始、GW、お盆における特例宿泊～

檜葉町滞在期間中の平均値、最大値及び年間被ばく量について

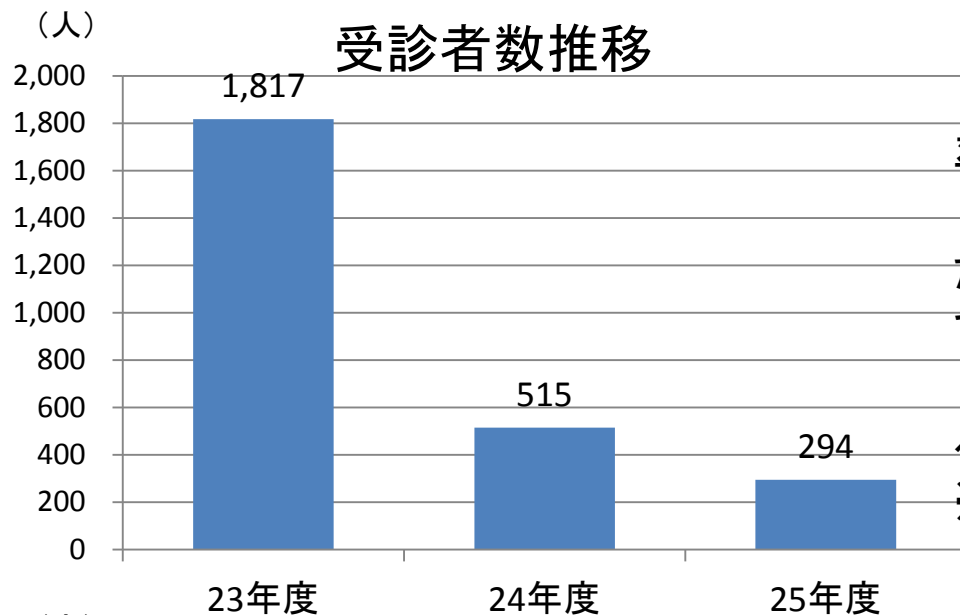
避難解除準備区域である檜葉町内での特例宿泊を、年末年始（平成25年12月24日～平成26年1月7日）ゴールデンウィーク（以下「GW」と記載する。平成26年4月26日～5月11日）、お盆（平成26年7月31日～8月17日）に実施。その際に、町職員がそれぞれの生活パターンによる外部被ばく量を計測。
 年末年始、GW、お盆を通して宿泊している職員1、4、7の年間換算被ばく線量は1mSvを下回る結果となった。また、各職員のGWにおける線量は、平均値、最大値、年換算値ともに、年末年始と比較して低下している。
 檜葉町内のサンプル数が限られていることから、今後、各特例宿泊を通して測定できるサンプル数を増やし、引続き実測していくことが必要である。（年間換算被ばく線量はBGを含む。）



(注) 年換算値は、滞在期間中の日ごとの積算量の平均値を基に算出。



⑧ホールボディーカウンター受診の状況について

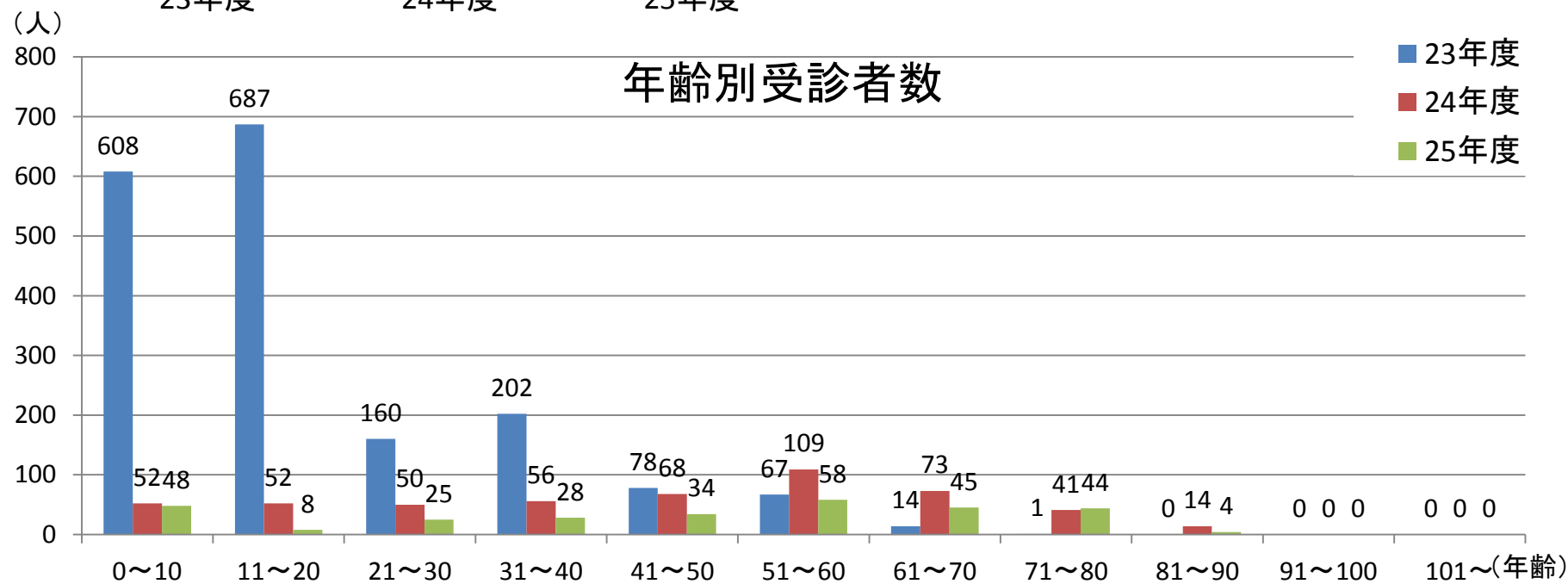


(左) 受診者数が減少している。若年層の受診率が大幅に減少していることが原因である。

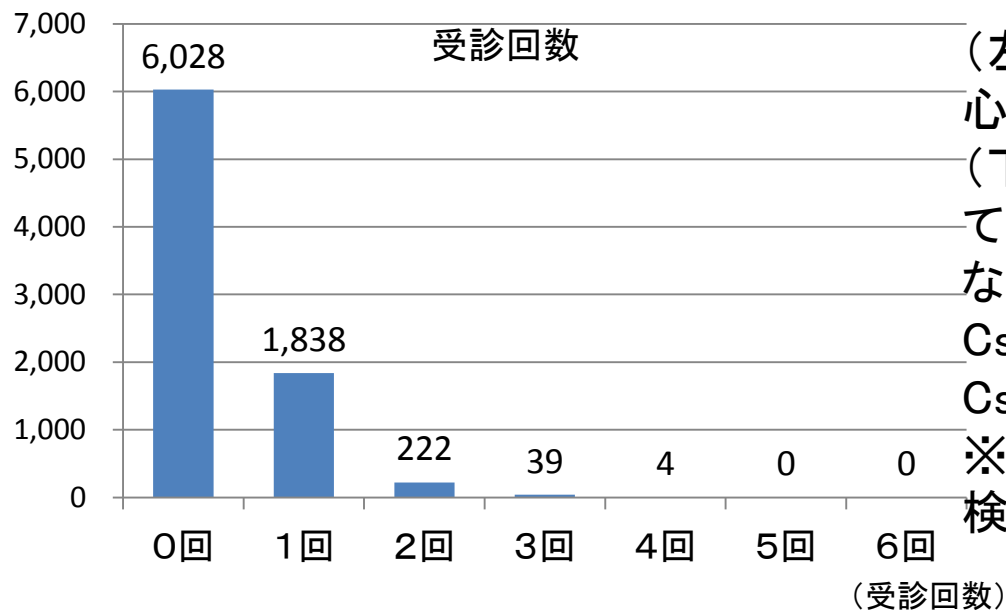
(下) 震災直後は、20歳以下の受診が多かったが、時間の経過とともに受診者数は減少している。

(下) 年を追うごとに、70歳代を中心に受診する割合が高いという傾向が見受けられる。

※平成26年度は146名が受診。



(人)



(左)複数回受診している者がおり、一部で関心の高さが見受けられる。

(下)Cs134、Cs137ともに、検出人数は減少している。

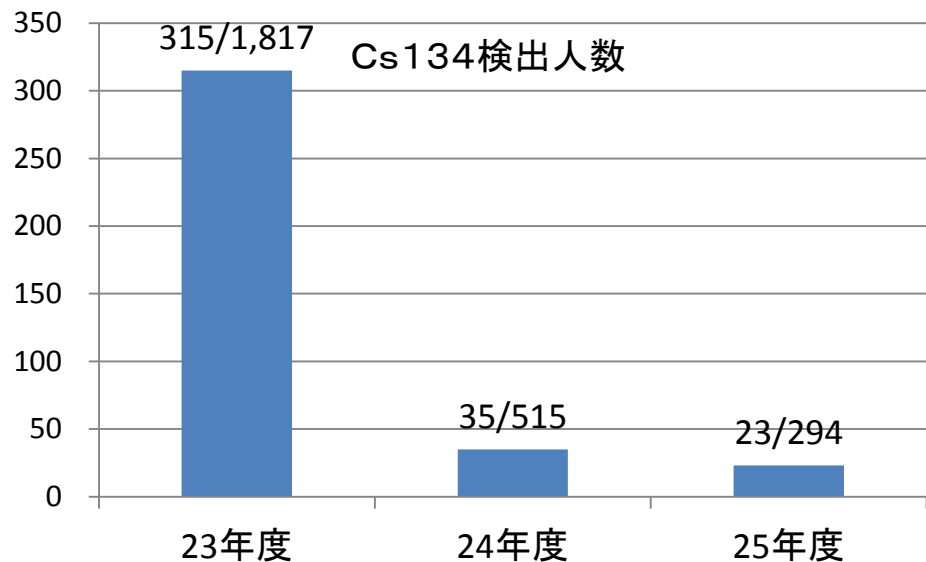
なお、平成25年度受診者の最高検出値は

Cs134 429Bq/body

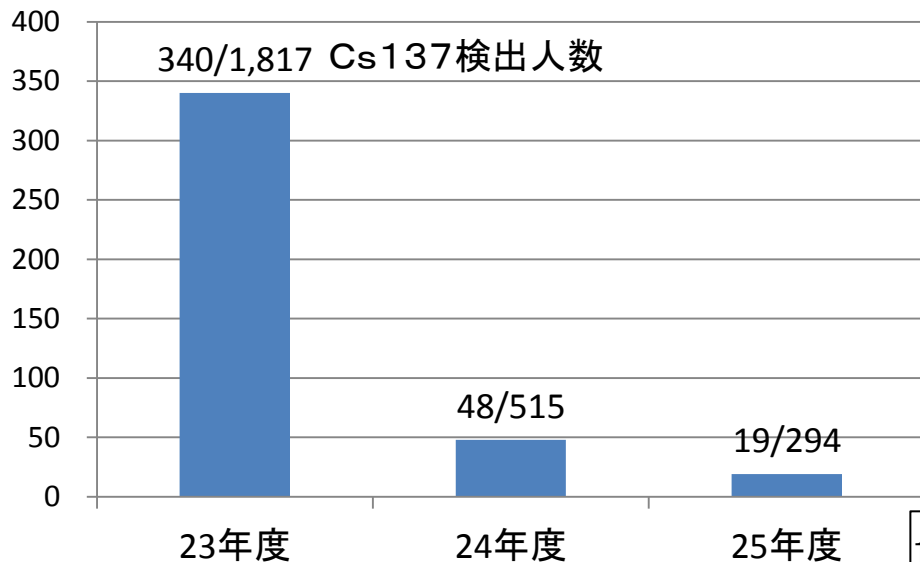
Cs137 720Bq/body

※平成26年度は1名がCs137、160Bq/bodyを検出。

(人)



(人)



⑨通学路における放射性モニタリングについて

調査方法

空間線量率が高い箇所が残っている可能性があることを念頭に、通学路や学校、公園等子どもが利用する施設周辺を重点的に、歩行によるモニタリング調査を行った。

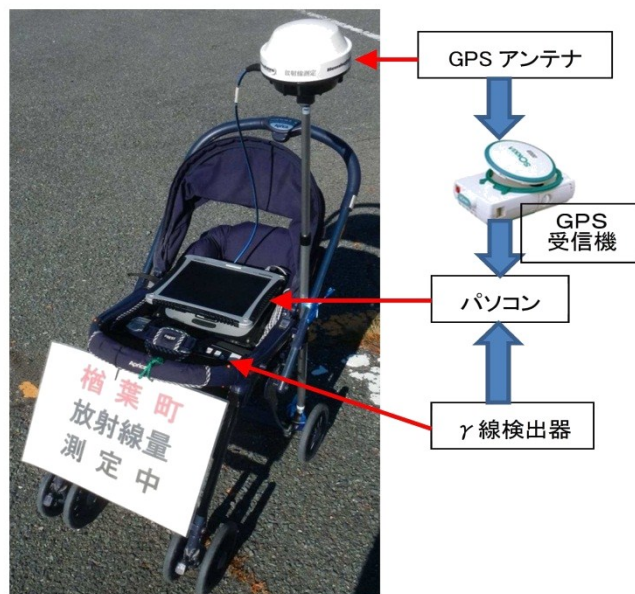
○測定方法

地面より50cmの高さで空間放射線量を測定。
測定結果を地図上へ5秒間隔でプロット

○測定機器

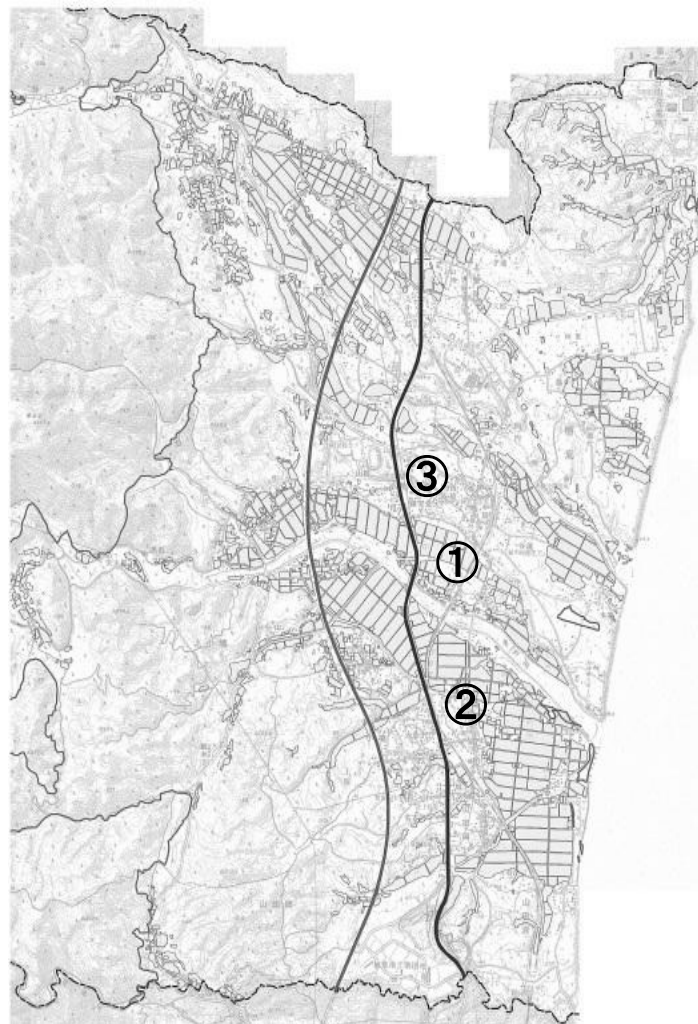
<計測記録項目>

- ・日付 時刻
- ・緯度 経度
- ・空間放射線量



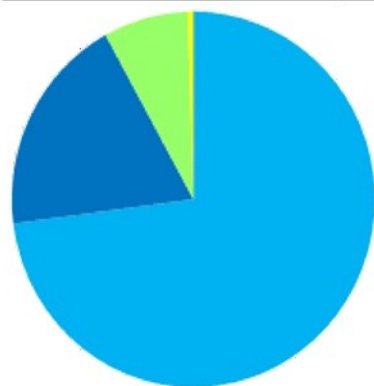
調査場所

- ①あおぞらこども園周辺 榑葉町大字北田周辺
- ②榑葉南小学校周辺 榑葉町大字下小埜周辺
- ③榑葉中学校周辺 榑葉町大字北田周辺

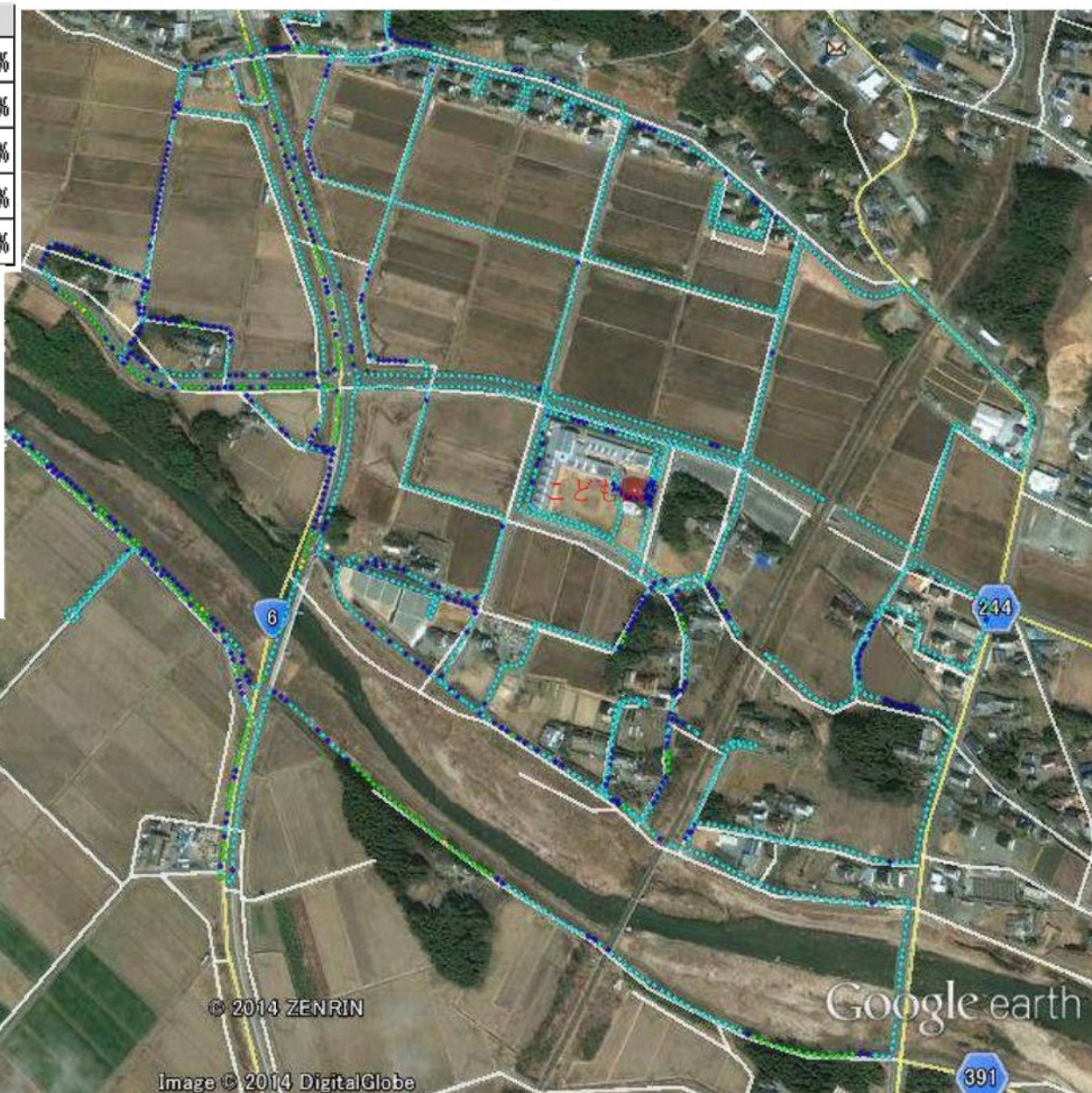


こども園周辺の50cm空間放射線量 (2014年9月10日計測、5秒間隔でプロット)

1秒間隔計測値	度数	比率
0<測定値<=0.23 μ Sv	8892	72.933%
0.23<測定値<=0.3 μ Sv	2321	19.037%
0.3<測定値<=0.5 μ Sv	918	7.530%
0.5<測定値<=1.0 μ Sv	61	0.500%
1.0<測定値	0	0.000%



- 0<測定値
≤0.23 μ Sv
- 0.23<測定値
≤0.3 μ Sv
- 0.3<測定値
≤0.5 μ Sv
- 0.5<測定値
≤1.0 μ Sv
- 1.0<測定値



①あおぞらこども園周辺

凡例

- 3.01~99.00 μ Sv/h
- 2.01~3.00 μ Sv/h
- 1.01~2.00 μ Sv/h
- 0.51~1.00 μ Sv/h
- 0.31~0.50 μ Sv/h
- 0.24~0.30 μ Sv/h
- 0.00~0.23 μ Sv/h



檜葉町南小学校周辺の50cm空間放射線量（2014年9月9日計測、5秒間隔でプロット）

1秒間隔計測値	度数	比率
0<測定値<=0.23 μ Sv	11,129	88.968%
0.23<測定値<=0.3 μ Sv	982	7.850%
0.3<測定値<=0.5 μ Sv	343	2.742%
0.5<測定値<=1.0 μ Sv	55	0.440%
1.0<測定値	0	0.000%

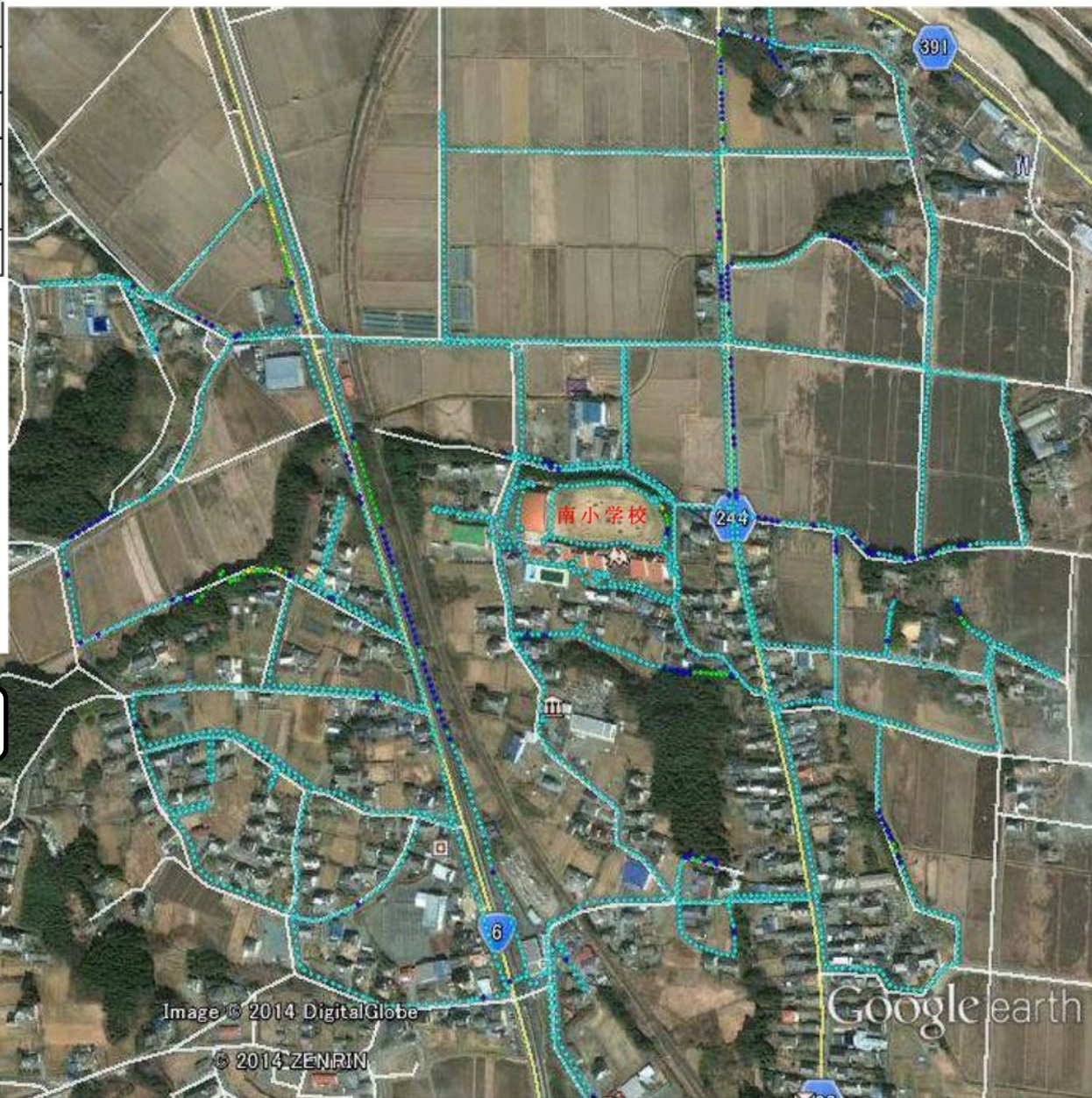


- 0<測定値
≤0.23 μ Sv
- 0.23<測定値
≤0.3 μ Sv
- 0.3<測定値
≤0.5 μ Sv
- 0.5<測定値
≤1.0 μ Sv

②檜葉南小学校周辺

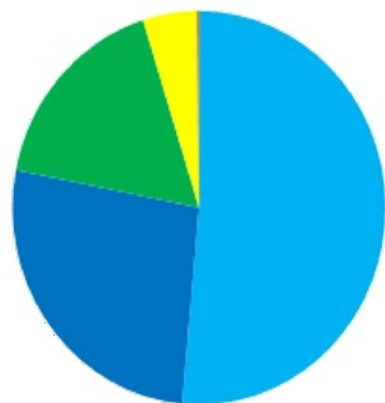
凡例

- 3.01~99.00 μ Sv/h
- 2.01~3.00 μ Sv/h
- 1.01~2.00 μ Sv/h
- 0.51~1.00 μ Sv/h
- 0.31~0.50 μ Sv/h
- 0.24~0.30 μ Sv/h
- 0.00~0.23 μ Sv/h



檜葉中学校周辺の50cm空間放射線量（2014年9月8日計測、5秒間隔でプロット）

1秒間隔計測値	度数	比率
0<測定値<=0.23 μ Sv	8324	51.449%
0.23<測定値<=0.3 μ Sv	4305	26.609%
0.3<測定値<=0.5 μ Sv	2762	17.072%
0.5<測定値<=1.0 μ Sv	760	4.697%
1.0<測定値<=2.0 μ Sv	28	0.173%
2.0<測定値	0	0.000%



- 0<測定値
≤0.23 μ Sv
- 0.23<測定値
≤0.3 μ Sv
- 0.3<測定値
≤0.5 μ Sv
- 0.5<測定値
≤1.0 μ Sv
- 1.0<測定値
≤2.0 μ Sv



③檜葉中学校周辺

調査結果

通学路における歩行サーベイの結果から、あおぞらこども園周辺では空間線量 $0.23\mu\text{Sv/h}$ の割合が約73%であった。園内においては $0.30\mu\text{Sv/h}$ を超える空間線量は計測されなかった。

檜葉南小学校周辺では、空間線量 $0.23\mu\text{Sv/h}$ 以下の割合が約89%であった。校庭内においては、 $1.0\mu\text{Sv/h}$ を計測するポイントも存在している。

檜葉中学校周辺では、空間線量 $0.23\mu\text{Sv/h}$ 以下の割合が約52%となっており、計測範囲を拡大し竜田駅までの範囲としたことと、その周辺の森林部分に隣接する道路を測定したことで比較的高い空間線量の割合となった。

これらの結果から、概ね空間線量の低減は確認されているものの、森林周辺や植栽部分など所々で比較的高い空間線量の場所が見受けられる。

今後の方針

今後も継続して、子どもの利用する施設を50cm高さでの調査を行うことで、より安心感を持てるよう線量の把握に努め、必要に応じて更なる除染を国に要望していく。

①除染仮置場監視実施状況について

目的

環境省が行っている仮置場の管理について、各行政区に町民代表からなる仮置場監視委員を設置し、町民自ら監視員として管理状況を監視し、安全かつ適正な保管状況であるかを、確認及び把握することを目的としている。

実施状況

現在14行政区16箇所の仮置場で仮置場監視を行っている。

6行政区8箇所の仮置場を今年12月から監視を開始する予定。

監視実施中仮置場

監視未実施仮置場

【 仮置場の点検項目 】

目視による監視	管理詳細の報告
《 通常巡回 》 シートやフェンス等に異常がないかを確認	《 異常気象時巡回 》 異常気象時に異常がないかを確認
《 空間線量率測定 》 既定の場所で空間線量を測定	《 地下水測定 》 月に一度、地下水の放射能濃度を測定
《 温度測定 》 可燃廃棄物について内部温度を目視点検	《 浸出水測定 》 月に一度、浸出水の放射能濃度を測定
《 ガス濃度測定 》 可燃廃棄物について一酸化炭素濃度を測定	

意見・要望

- ・仮置場敷地内の環境保全の徹底に努めること。(草刈り・野生動物の進入防止)
- ・仮置場機器等の故障・破損に注意し、必要があれば修理・交換をすること。(温度計等)
- ・台風等、自然災害時における迅速な点検の徹底。(強風・豪雨等)
- ・仮置場敷地内の貯留水、浸出水における漏出の防止。並びに測定・排出の管理徹底及び住民周知に努めること。

【 檜葉町内の仮置場位置図 】

除染廃棄物仮置場設置数 20行政区 24仮置場



平成26年5月から監視可能仮置場において延べ64回実施、176名の住民が監視員として参加している。
(平成26年10月末時点)

〈参考〉除染仮置場監視月別実施状況

【5月】10行政区11仮置場

実施日	行政区	参加人数
5月15日(水)	下小埜	3名
	女平	3名
5月16日(木)	楢木下	2名
	上小埜	2名
5月22日(木)	繁岡	3名
	松館	3名
5月28日(水)	下繁岡	2名
	営団	3名
5月29日(木)	上繁岡	3名
	旭ヶ丘	3名
合計		27名

【6月】13行政区15仮置場

実施日	行政区	参加人数
6月4日(水)	大坂	3名
	乙次郎	2名
6月12日(木)	女平	3名
	上小埜	3名
6月13日(金)	大谷	3名
	下小埜	2名
	松館	3名
6月19日(木)	波倉	3名
	下繁岡	2名
	営団	3名
6月20日(金)	上繁岡	3名
	繁岡	3名
	旭ヶ丘	3名
合計		36名

【7月】7行政区8仮置場

実施日	行政区	参加人数
7月16日(水)	波倉	3名
	繁岡	3名
	上繁岡	3名
7月17日(木)	大谷	3名
	松館	2名
	旭ヶ丘	3名
7月23日(水)	営団	3名
合計		20名

【8月】11行政区13仮置場

実施日	行政区	参加人数
8月20日(水)	乙次郎	2名
	大坂	3名
8月21日(木)	女平	3名
	下小埜	3名
	上小埜	3名
8月26日(火)	波倉	3名
	繁岡	3名
8月27日(水)	大谷	3名
	旭ヶ丘	3名
	松館	3名
8月28日(木)	営団	3名
合計		32名

【9月】12行政区14仮置場

実施日	行政区	参加人数
9月11日(木)	乙次郎	3名
	大坂	2名
9月17日(水)	女平	3名
	下小埜	1名
	上小埜	3名
9月18日(木)	波倉	3名
	上繁岡	3名
	繁岡	3名
9月24日(水)	大谷	3名
	松館	3名
9月25日(木)	営団	3名
	旭ヶ丘	3名
合計		33名

【10月】11行政区12仮置場

実施日	行政区	参加人数
10月16日(木)	大坂	3名
	楢木下	2名
10月22日(水)	女平	2名
	下小埜	1名
	上小埜	3名
10月23日(木)	旭ヶ丘	3名
	松館	3名
10月29日(水)	波倉	3名
	上繁岡	3名
	繁岡	3名
10月30日(木)	営団	2名
合計		28名